

着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
KIKKOMAN (S) PTE LTD
Managing Director
築地 貴之



シンガポール日本商工会議所の皆様、この度、理事及び第二工業部会長を務めさせていただきます KIKKOMAN SINGAPORE の築地貴之と申します。2024年4月に阿部の後任として着任致しております。まだ、シンガポールについての経験も知識も乏しい中、このような大役を拝命し身の引き締まる思いと共に、甚だ微力ではございますが新しい視点で当会へ貢献できるように努めてまいります。紙面でのご挨拶となりますが、宜しくお願ひ申し上げます。

来年、当社がシンガポールに生産拠点を設立し40周年を迎えます。醤油という日本の伝統調味料を効率的に生産し、アセアン・ヨーロッパ諸国といった新たな需要を生み出す国々へ出荷することが設立当時のミッションでありました。当時と比べ、今や人件費のみならず原料・包装資材、エネルギー等の調達コストはシンガポールの経済発展と共に飛躍的に上昇し、ビジネスモデルは大きな転換期を迎えてきております。加えて狭い国土での高い生産性、付加価値の高い事業性を期待され、これらの課題をシンガポールでも数少ない食品製造工場としてのプレゼンスを高めて、達成をしていく重要な局面でもあります。

私が入社した1990年代は日本国内の製造工場において、プロ意識の高い「職人気質」がまだ根強く残っており、それが伝統や品質を構成する重要な要素であった時代でした。今回シンガポール工場に着任後、設立当時からの社員の仕事に対する姿勢に「同じ匂い」を感じました。日本人赴任者の先輩方の経験や知恵が「当たり前の習慣」として設立40年を経て、異国でも「企業文化」として根付いていることに驚きを感じています。大学時代、恩師から「当たり前の事を馬鹿にせずに出来る会社が最も強い」という言葉を教わりました。シンプルなフレーズですが、長い会社生活の中でも常に心の拠り所として残っている言葉であり、目の前の当たり前の小

事の積み重ねが大事に繋がると理解しています。少し横道に逸れましたが、「困難で変革を求められる重要な局面」だからこそ、「当たり前の小事」の着実な実践が、「新たな価値創造という大事」に繋がると考えて取り組んでいきたいと思ひます。

赴任後の生活では、便利な生活環境が享受できる環境、そして全ての活動がエネルギッシュであり前進する力の強さを感じています。シンガポール及び周辺国においては、多様な食習慣による食文化が存在しており、日本食の品質・信頼との融合による新しい食文化への創造に繋がる大きな可能性を感じています。振り返ってみますと、これまでの私自身の会社生活のキャリアは日本国内を拠点としたものでした。入社以来、設備技術の開発、製造工場の経験を経て、その後のキャリアの大半を「醤油から派生したレトルト食品、つゆ、たれ調味料等の新規カテゴリーの食品事業の開発」の生産スタッフとして従事し、国内での食品工場の立ち上げや国内外の社外パートナー工場を飛び回っていました。その中で、社内プレゼンスの大きい「醤油製造に関わる業務」への強い想いや羨ましさもありました。一方、これらの生産スタッフとしての業務は「新しい商品価値の創造」を常に考えさせられるものであり、結果としてこれらの経験が変換を求められるこの地への赴任にも繋がったと感じております。是非、この地でのモノづくりを通じて、皆様の「おいしい記憶」や「シンガポールと日本の食文化の国際交流」のお役に立てればと思ひます。

今回、シンガポール日本商工会議所の活動に参加させて頂く事で、多様な業種／職種の皆様との情報交換の機会を頂戴できますこと楽しみにしております。その節には、どうぞ宜しくお願ひいたします。末筆ではございますが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。